

第二十九回宮柊二記念館全国短歌大会

選者

沖

ななも

先生

橘

芳

先生

入選作品集

第二十九回宮柊二記念館全国短歌大会ご参加へのお礼

大会会長 魚沼市長 内田 幹夫

第二十九回宮柊二記念館全国短歌大会に、遠くはブラジル、オーストラリアから、そして日本全国各地の皆様から、多くの歌を寄せていただいたことに心からお礼申し上げます。

また今回も、一般の部においては、九百首を超える作品が寄せられました。ジュニア部門とあわせ、全体では今年も一万二千首を超える応募をいただき、「全国短歌大会」の名にふさわしい大会としていただくことができました。

このようなたくさんの応募歌について心を込めて選歌をしてくださった沖ななも先生、橋芳圀先生に心からお礼を申し上げます。

沖ななも先生は、歌誌「熾」の代表を務めていらつしやいます。デビュー作である詩集『花の影絵』をはじめ、歌集『衣裳哲学』等、多くの著書がございます。

橋芳圀先生は、「コスモス」選者、コスモス短歌会新潟支部代表、宮柊二記念館運営委員を務めていらつしやいます。これまでに「O先生賞」「コスモス賞」受賞等の経歴をお持ちです。

このような素晴らしい先生お二人から選歌をいただけたことを皆様とともに感謝したいと思えます。

新型コロナウイルスの感染分類が五類に引き下げられたことで、これまでの日常を取り戻しつつある一方で、今年は新潟の八月の平均気温が全国一位となるなど、異常とも言える猛暑が続いた夏となりました。魚沼は錦秋から晩秋へ、ぜひこの機会に魚沼の秋をご堪能いただきたく存じます。

皆様のご支援とご協力により、二十九回目の大会を成功裏に終えることができましたことを改めてお礼申し上げます。そして、引き続き多くの人々が短歌に親しむとともに、楽しみながらも一層研鑽されますことを祈念し、お礼のことばといたします。

沖 ななも

令和もすでに五年になる。その間の大半はコロナ感染拡大で苦しんだ。閉塞的な三年間だった。まだ完全に不安が払拭されたわけではないが、ようやく少し明るい兆しが見え始めたタイムリングでの短歌大会。

小学生、中学生、高校生の応募作品は数も多く、それだけに多彩でレベルも高い。小学生が中学生になり高校生になる頃にはさらに充実してくることだろう。何か一つでも自分を表現する手段を持っていることは、生きていく上でも大事なことなのではないだろうか。

今回は、ほとんどコロナの歌はなかった。すでに次の一步に踏み出していることを実感した。そこにはコロナやウィルスなどとは関係ない自然の営みを受け入れる歌もあり、取り戻した日常生活の歌もあった。取り戻したといっても元には戻れない、戻っているようでいてやはりコロナ前とは違う日常をどう捉えていくか。

コロナで中断されてしまった期間だが、それでいて続いている時間。母の裁縫道具は昭和のもの、平成の前の時代がまだ続いている。何かの領収書、領収書としてではなく、令和元年五月一日、改元の日だから捨てられない。時代に立ち会った証拠なのだ。「幻」は何度書いても書きにくい。最近パソコンなどを使うことが多くなって字を書かなくなったから余計そう思う。顔認証のスマホは他人には開けられないはず、でも似ている姉妹では開いてしまう。完全とは言えないAI機器。火花があがっているその同じ空をミサイルが飛んでいる現実。それぞれが「今」を捉えている。この「今」という感覚こそ大切だ。

これからどんな時代になっていくのか、社会情勢も、地球温暖化の問題も、あるいはAIの進化も、そして家族のありかた男女のありかたなど人間関係もどうなっていくかわからないが、人々は生きている限り歌を作っていくのだらうと思う。

歌との出会い

橘 芳圀

今回たくさんの若い人達の作品を読む機会がありました。実は私が短歌を作り始めたのも小学校時代の詩の宿題がきっかけだったように思います。私は地図や統計書を見るのが好きで地理の教師になりました。教員になって二年目、夜間定時制高校の一年生の担任になりました。入学して二ヶ月目、まだ免許年齢に達していない十五歳の生徒が交通事故で亡くなりました。ペテラン教師であれば防ぐことが出来たのではないかと自問自答しながら未熟な自分を責める日々が続きました。そんな時、小学校時代に詩を作ったことを思い出したのです。生徒のことを歌に詠もうと思いたちました。地元新聞の歌壇の選者は宮先生でした。そして「コスモス」に入会しました。そうこうしていると、今度は住職の父が亡くなりました。信仰のない自分が寺役を務める矛盾に悩むことになりました。教師としての悩みと、思う事と現実との隔たりを埋め得ないまま村住職を務める悩みは、昏迷を深めるばかりでした。七十八歳のこれまでなんとか安定を保ってこれたのは、そういった自分をありのまま歌に詠むこと、その歌を理解し励ましてくれた師や家族、多くの友人の存在があったからだと思います。

宮先生は『山西省』後記に『行為と智識の乖離に常に悩まねばならなかった』と誌されています。また、その後二十四年経て出された『藤棚の小室』の覚え書きには「一略—自分の選んだこの生活にも、別の戦場のごとき衝撃感、悲哀感、孤独感がこもごもにあつたからである。そして、それらをここで鎮めようと努めたのであつた。」と作歌への姿勢を誌しておられます。これらの言葉は、歌を作り始めてから現在まで、私の作歌の指針になって、勇気を与え続けてくれました。今回歌を出して下さったみなさん、いつか若い頃に歌を作ったことを思い出して下さい。そして宮棧二記念館を訪れて下さい。きっと私のように、宮先生との良い出会いがあると思います。



沖ななも（おきななも）

1945年茨城県古河市生まれ。

加藤克巳主宰の「個性」入会。終刊後2004年「熾」を創刊、代表となる。

現代歌人協会、日本文芸家協会、日本ペンクラブ会員、埼玉県歌人会会長。

歌集に『衣裳哲学』（現代歌人協会賞・埼玉文芸賞受賞）『機知の足首』『木鼠浄土』『ふたりごころ』『天の穴』『一粒』『三つ栗』『白湯』『日和』ほか。エッセイ集『樹木巡礼』『神の木民の木』『百人百樹』『季節の楽章』『明日へつなぐ言葉』。

評論『森岡貞香の歌』『全円の歌人 大西民子論』。入門書『優雅に楽しむ短歌』『今から始める短歌入門』。詩集『花の影絵』など。



橘芳圀（たちばなよしくに）

1945年新潟県白根市生まれ。

1968年県立高校社会科教諭。三十八年の在職中の二十一年間、宮先生作詞の校歌を生徒たちと歌う。

1976年コスモス短歌会入会。1990年コスモス短歌会新潟支部報「河」編集長。

1996年第四十二回「O先生賞」受賞。2000年第四十七回「コスモス賞」受賞。

現在、「コスモス」選者。コスモス短歌会新潟支部代表。宮柁二記念館運営委員。

一般部門

応募歌数

九三四首

最優秀賞

幻と書く時いつも四画目空足踏んだような気がする

園部 淳

(愛媛県松山市)

選者賞 (沖ななも選)

実相に観入するほど見えますと頬笑む妻にとまどう眼科医

鈴木鋭二

(愛知県刈谷市)

選者賞 (橘芳囿選)

残雪がひらがな風にやせ細り夏が近づくと越後三山

磯部 剛

(新潟県魚沼市)



魚沼市長賞

地を分けるフォッサマグナの東西を糸魚川の地懷に抱く

相馬啓子

(新潟県村上市)



新潟日报社賞

数Ⅲの追試の吾は数式の海にただよう一羽のかもめ

樋口 勉

(和歌山県海南市)

宮柁二記念館長賞・・・五首

乗り換えに遅れてひらくみすゞの詩プラットホームを稲穂の囲む

篠崎俊二

(神奈川県厚木市)

鯨尺、鏡台、絢台たたまれて昭和はありぬ亡母ははの離れに

桑田美智代

(熊本県八代市)

「出穂でほみず水を飲ませてあげる」と猛暑日に八十路の夫が水引きに行く

早川モトエ

(新潟県見附市)

空翔る夢すてきれぬ真鯉かも水面打ちうちいくたびも跳ぶ

向井富美子

(香川県観音寺市)

「人間とは」問ひの答へをさぐりつつ短歌詠みつぎ年重ね来つ

関川洋子

(新潟県小千谷市)

秀逸 (一)・七首

墓終ひ生家終ひをせし兄が捨てし郷恋ふ癌病む床に

藤林正則

(北海道札幌市)

南海の戦火に散りし父よ父よ群青色を溶きつつ憶ふ

藤井重行

(山口県宇部市)

聞き做しは様々あれど「母ちゃん」と我は聴くなり雉子の鳴けるを

大賀康男

(愛媛県新居浜市)

令和元年五月一日の領収書捨てがたきかな改元の日ぞ

本多義夫

(新潟県魚沼市)

わだつみの春連れチヌダイ届きたり二尾が活々ト口箱ゆる

南 静子

(大分県中津市)

目立たずに時には死んだふりもして生きております ナナフシ今日も

松山宏意

(栃木県芳賀郡)

山を掛けた問題が出て鉛筆を持つ手が震えた五月の風だ

鈴木淳一

(愛媛県松山市)

残雪の少なくなりし遠山に向かひて今朝も杖つき試歩す

土田 淑

(新潟県糸魚川市)

「じいちゃんも竜宮城に行ったのか」行ったと言えばやと寝ついた

樋口 勉

(和歌山県海南市)

「赤とんぼ」「一式陸攻」「零戦」の通じる学友まだ三人みたり在り

羽田野とみ

(大分県大分市)

鴉がね横断歩道で立ちつくす俺に似ている飛べばいいのに

渡辺 勇

(新潟県新潟市)

もしイブがリングゴ食べねばこの地球いまは如何なる 赤い皮むく

友田葉子

(愛知県江南市)

「男」・「女」ほか「その他」欄あるアンケート遅れて成らずと世の流れ汲む

佐藤春夫

(東京都足立区)

鉄砲百合が火照りを冷ましてゐるならむ涼しき風の吹き来る夕

蘿 淳子

(島根県雲南市)

目の前の大なわとびに入ること時を逃さず会話に入りぬ

田端かよ子

(新潟県魚沼市)

努力義務のヘルメット被き梅雨あけの陽の下走る八十路のわたし

小藤和子 (岡山県岡山市)

何もかも夢として終らせましようささやくように散る桜花

野添一男 (兵庫県西脇市)

驟雨止み長考終えた終盤の藤井聡太の勝利への寄せ

野呂裕樹 (大阪府大阪市)

レシートに〈やゃんいんちん80〉とあり儉しき妻に胸突かれたり

斎藤 斌 (新潟県新潟市)

廃業の良寛牛乳事業所はちりひとつなく扉をとざす

野田香織 (東京都豊島区)

できることひとつひとつと増えてきてりハビリ室の窓に春風

松井純代 (奈良県橿原市)

悲しみを歌詠むことで耐へにけり歌詠むことは辛きことなり

高橋 忠 (新潟県新潟市)

鍬を振る力ある身のうれしくて里芋に土一氣に寄せぬ

渋谷和子 (新潟県新発田市)

〈かごめかごめ〉〈夕やけ小やけ〉とBGMすすみて無宗教なる献花おわりぬ

山崎蓉子 (千葉県市川市)

角兵衛獅子の初舞台踏む七歳の乳歯の脱けも愛しき四人

山崎とし子 (新潟県新潟市)

保育所でひかりを放ち待つてゐるわが子はわれの小さき灯台

小金森まき
(千葉県千葉市)

つまらない映画が見たい 明日という不可抗力への反撃のため

濱 泰斗
(宮城県仙台市)

すべきこと、したいこと、できること 順に消えゆきさびしく身軽

徳永多恵子
(東京都品川区)

夏ちかし絵画サークル私語きえてレモンの味の飴まわりくる

折笠瑞枝
(新潟県新潟市)

梅雨明け後一月ほどの早魃にまぶらいの雨いま降り注ぐ

義原一郎
(鹿児島県大島郡)

よろめきて支柱に縋り茄子を擁ぐ婆々の茄子漬待つ人の居て

山本美代
(新潟県魚沼市)

生きられる時間は限りがあるけれど生きる長さは自分で決める

渡辺晃子
(新潟県魚沼市)

エイ鱧を黙って炙り父と酌む次男の吾は寡黙だけ継ぐ

濱岡 学
(京都府宇治市)

佳作・・・四十五首

最終電車が走つて行つてそのあとにこんな静かな田園がある

大和昭彦

(宮城県石巻市)

ナナハンの上に飲みたし濁酒どぶろくを謙信公の馬上ばじょうばい盃もて

西尾嘉浩

(岐阜県中津川市)

見送りの女学生らが手を振るを学徒兵らは敢へて見ざりき

西尾嘉浩

(岐阜県中津川市)

「もう死ぬ」と大きな声で笑わせる百六歳に今日も青空

樋口 勉

(和歌山県海南市)

縹渺ひょうびょうたる大阿賀おおあがの河口かこう雪晴れて 何漁すなどるや 舟ひとつ見ゆ

高橋卓二

(新潟県新潟市)

亀は眠る埴輪のような顔をして億万年の夢を見ている

中屋敷 歩

(北海道函館市)

スターリンになりたい男と毛沢東になりたい男 手を握り合ふ

松田早苗

(茨城県つくば市)

亡き母が窓辺で描きし庭の花手折りて秋の蓼参れいさんに行けり

綿貫昭三

(神奈川県横浜市)

丸末の肇さんのこと同郷の母は魚沼ことばで語りき

南雲悦子
(新潟県上越市)

地に近く手押し車を押しながら影絵のように老婆は進む

園部 淳
(愛媛県松山市)

良寛のことは身に染む災難に遭いてさらなる災難に遭わず

松下弘子
(鹿児島県伊佐市)

圧縮をされいし春が飛び出ずる路の臺指に地より摘まめば

瀬戸内 光
(山口県光市)

一族の墓にも貧富の歴史あり石ころ紛いも御影の墓も

小畑定弘
(徳島県阿南市)

雨で湧く海月のような透明の傘には海月が持たない背骨

金森人浩
(東京都板橋区)

松原の幹のしじまをゆく時の松一族の老若の声

豊田桂子
(愛媛県西条市)

高飛込み四回転をピタリ決めジャックナイフはプールを突きさす

廣岡梅生
(三重県志摩市)

魚沼はわが生まれぐに雪のほか誇るものなきわが生まれ国

庭野治男
(東京都杉並区)

「目の保養」と言ひてチャンネル譲らないイケメン男子観てゐる妻は

西崎恭司
(神奈川県川崎市)

心身は少し弱れど元気で夢に会ひたる母につげたり

岡田万樹 (熊本県熊本市)

親指の爪に憂いを残しゆく露の皮むき山椒の芽つみ

生田麻也子 (鳥取県米子市)

初孫が、^(ゆいちゃん)「ポ」つと指差しししゃがみこむ初めて覚えた花はタンポポ

堀 正道 (新潟県小千谷市)

子と孫と同じ面なる曾孫^{ひい}が走り寄りきて吾にハグする

伊東 敦 (新潟県新発田市)

堰越ゆる若鮎のごと銀輪をくねらせ男^おの子坂を上り来

船岡房公 (滋賀県大津市)

驟雨来て水車小屋へと辟難する畑仕事の喜寿が傘寿が

若山 巖 (埼玉県所沢市)

領海も領土も無縁のつばめ来る臥床の夫に窓開け告ぐる

井田徳子 (群馬県高崎市)

幾千のランナー黒部川を下りゆく銀の茅^{ちがや}がなびく堤防

西村好美 (富山県黒部市)

この我も誰かに包まれ生きていてさやえんどうがうまく剥けない

ムフ (青森県弘前市)

六月の薔薇ふくふくと咲き揃ひホースで配る水のかがやき

吉仕節子 (新潟県長岡市)

詩や歌が心を埋めてくれるなら寂しいときは寂しいと詠む

加藤健司
(埼玉県鴻巣市)

これ以上のよい子ってどんな子笑って問う子らの瞳のやんちゃなひかり

久保澄子
(栃木県那須塩原市)

手の平でドングリ見せ合う子のように雪掻きまめの披露をし合う

杉江正子
(新潟県村上市)

コロナ禍を脱出したよ錦鯉背中の紅もさわやかに見ゆ

小林宏子
(新潟県新潟市)

返信は「働いてるから買えるからあれも要らないそれも要らない」

高田明洋
(埼玉県春日部市)

これと言ふ財残ざいのこさねど三人の子税納め得る程と成りたり

瀬川チエ
(北海道小樽市)

生きて来た証を自ら消し去るとそんな気がする終活もある

関 泰邦
(新潟県小千谷市)

ポンポンとチンパンジーのごと胸たたき己れを鼓舞する何かある日は

児玉幸子
(島根県出雲市)

豪雨やみ熱風吹けば下駄箱から駆け出しそうなビーチサンダル

岸下澄江
(鳥取県鳥取市)

盆花の盆を待たずに咲きにけり地球温暖化ここにも及ぶ

本多義夫
(新潟県魚沼市)

凍み渡り出来る朝は田の上を歩き登校近くに思へた

五十嵐トシエ（新潟県魚沼市）

あをあをとさやく稲田の一区画荒れたるままの学校田見ゆ

鷺巣錦司（静岡県静岡市）

店頭のハニーローザの赤き実が透けるばかりに夏が来たれり

福島登美（熊本県熊本市）

山かげの朝風清しき布袋野ほたいのに友住みてをり鯉飼ふ夫と

赤岩邦子（京都府京丹後市）

風の中をすると泳ぎ蛇のごと鬼やんまあをき残像残し

渋谷史恵（宮城県多賀城市）

ちちははでも妻子でもなく兄の骨拾ふは弟われひとりのみ

藤林正則（北海道札幌市）

アザミでもそつとふれたら痛くない祖母のほほえみ浮かぶ畦道

佐々木泰三（長崎県長崎市）

ジュニア部門（小学生の部）

応募歌数

一、三五五首

最優秀賞

かくれんぼやつと見つけてもらえたよみんなの中へかえってこれた

福崎 理

（新潟大学付属新潟小学校）

選者賞（冲ななも選）

はっぱがね赤と黄色になったなら山がぬりえをはじめたんだよ

田村和花

（十日町市立中条小学校）

選者賞（橘芳囿選）

物語自分の世界入りこむみんなの声が聞こえなくなる

眞島もえか

（魚沼市立堀之内小学校）



魚沼市長賞

夕暮れの赤い光に重なったとんぼの羽と私の手

村山風華

(十日町市立中条小学校)



新潟日報社賞

あつひい日もゴミしゅうしゅうするお父とうさんきれいな町まちでみんながえがお

櫻井はる

(魚沼市立湯之谷小学校)

宮柊二記念館長賞・・・八首

食よくがあまりなかったじいちゃんが私がいたらたくさん食べた

安部心絆

(小千谷市立小千谷小学校)

押し入れの暗闇の中鬼が来るほこりの匂いともういいかい？

佐々木穂乃花

(魚沼市立須原小学校)

雷が鳴る音きいてへソかくすかわいすぎだよ我が弟よ

小沼未央

(魚沼市立広神東小学校)

念願の決勝行けたバタフライその時ぼくはイルカになった。

山田雄星

(魚沼市立須原小学校)

学校に転校生がやってくるわくわくするよ7月3日

武藤あい

(魚沼市立小出小学校)

夏休み雨ふらないなカラカラだぼくとカエルもカラカラ体

木皿光乃助

(魚沼市立堀之内小学校)

ただみせん家のまどから手をふるとポーツとへんじを返してくれる

松田彩聖

(魚沼市立広神東小学校)

初キャンブ青空の下ごはん食べいつものカレーがいつもとちがう

北村 葵

(魚沼市立湯之谷小学校)

秀逸・・・二十七首

カブトムシゼリーたべたらすぐもぐるきもちいいのか木くずの中は

渡邊琉愛

(魚沼市立広神東小学校)

命がねつきる日にはねありがとうさようならをね伝える日だよ

布施晴香

(魚沼市立堀之内小学校)

お洋服母が選んでほくが着るいつかは自分で全身コーデ

古田島風志

(魚沼市立堀之内小学校)

川遊びきれいな水できもちよい犬といっしょに犬かきをした

古山優空

(魚沼市立湯之谷小学校)

うちのねこ小麦色の毛ピンクの手もつちりのはら百点満点

野澤ちはや

(小千谷市立小千谷小学校)

PKせんねらいをさだめてボールをけたゴールネットがふわりとゆれた

小山隼人

(魚沼市立湯之谷小学校)

公園で楽しく遊ぶ鬼ごっこ帰る時までにはげ続けるぞ

渡邊太一

(魚沼市立堀之内小学校)

モノレールけしきがどどんぼやけるよおばあちゃんちがとおくはなれる

大塚千歳

(長岡市立福戸小学校)

かかしさん田んぼの見はりありがとうおいしいお米とれますように

松田彩聖

(魚沼市立広神東小学校)

ひさしぶりがっこうにきておもったよ「私の席はどこだっけ」っと

中林袖月

(魚沼市立堀之内小学校)

夏祭り打ち上げ花火音がする山のむこうのとなり町から

金本瑞輝

(魚沼市立堀之内小学校)

おでかけでホテルのおふるおおすぎてどれにはいるうだいよくじょう

渡邊雄太

(魚沼市立湯之谷小学校)

見つけたよさくらのようせい見つけたよお空を飛んでお花見してた

八海みなみ

(魚沼市立伊米ヶ崎小学校)

せみの声ジリジリミンミンミかぞくのけんかクラスのけんか

伊藤羽姫

(魚沼市立小出小学校)

雲うかぶふわふわやたい夏祭り風船うきわたあめポテト

星 結菜

(魚沼市立小出小学校)

ドラエモンスマールライトつかつたらちいさくなつてぼくはふまれた

原寺流輝

(魚沼市立小出小学校)

たらい舟ゆらりゆらりとただよつてガラスの下は海が広がる

白井智広

(新潟大学付属新潟小学校)

いもうととおかしいつしよにたべてたらけんかはじまるよかんがするぞ

覚張紗登

(魚沼市立堀之内小学校)

夏休み早ね早起きできなくて始業式の日五分おくれた

皆川蓮斗

(魚沼市立堀之内小学校)

やきゅうではあいてがなげたはやい玉セーフティバントでいちるいにく

澁谷柁郁

(下松市立中村小学校)

今年からおはやし参加たのしみだみんなにみせるほくのしのぶえ

井口晃汰

(小千谷市立小千谷小学校)

夏休み^{なつやす}動物園^{どうぶつえん}に行^いったけどどうぶつみんな日^ひかげにいたよ

會田凜花

(長岡市立福戸小学校)

夏休み海にいったよ楽しいなこどものフグがたくさんいたよ

波方 愛

(魚沼市立堀之内小学校)

かぎりなく星がかがやく夜の空とてもきれいだいいゆめ見そう

大平ありん

(魚沼市立堀之内小学校)

リュックしよい木道歩くほくたちの前にあるのは雲とひうちケだけ

関 駿介

(魚沼市立湯之谷小学校)

夏休みスイカやメロンたべたけど一番美味は自作のトマト

吉田宗真

(魚沼市立湯之谷小学校)

まちに待ったそろばん試験おちるまいきょうふでいどむパチパチいどむ

星野煌太

(魚沼市立小出小学校)

佳作・・・三十二首

空とべるはしゃいだあとで自慢する目がさめたから夢と気づいた

大野一樹

(防府市立右田小学校)

しおつけて食べるキュウリは大好きだまるごと食べる片手で食べる

萱原悠輝

(光市立三輪小学校)

たなばたでデュエマのカードほしいってたんざくにかくしらないうちに

澁谷柁郁

(下松市立中村小学校)

お祭りでやつとすくった三匹のみんなはぼくの自慢のメダカ

福崎理

(新潟大学付属新潟小学校)

夏まつり友とめぐるもぶつかだかショックをうけるぼくのおさいふ

穴沢蒼唯

(小千谷市立小千谷小学校)

にげ水をおいかけていてもどんどんとすごくにげるよすごくはやいな

岡村晴斗

(小千谷市立小千谷小学校)

船釣りで1匹タイが釣れましたおさしみにしていただきました

横山凜太郎

(小千谷市立小千谷小学校)

ばちにぎる右手の指にかたいまめこれが私の練習成果

町田梓

(小千谷市立小千谷小学校)

宿題が終わってなくても遊んじやうそんな自分と別れたい

大熊こまち

(小千谷市立小千谷小学校)

ふきのとうあたたかな春がくるたびに雪解け水で顔を出す

庭野紗彩

(十日町市立中条小学校)

妹をにらみつけたらにらまれたかなしくなった妹一さい

仲沢翔輝

(魚沼市立堀之内小学校)

ぼくの球打てるものなら打ってみろ打席はおとう親子でし合

橘 諭良

(魚沼市立湯之谷小学校)

海に行き大きな波がおしよせて頭の上に魚ピチピチ

米山なずな

(魚沼市立湯之谷小学校)

あまの川かんさつ中にこをえがくオレンジ色のながれ星見た

星 時仁

(魚沼市立湯之谷小学校)

さくらの木卒業式で花びらと、なみだがいっしょに落ちていっている

田澤里穂奈

(魚沼市立小出小学校)

道端に風に吹かれたたんぽぽがここにいろよと手招きしてる

柄澤琉生

(十日町市立中条小学校)

「春だよ」とあたたかくなり顔を出す春を知らせる小さな命

村山風華

(十日町市立中条小学校)

ひるやすみ運動場を見てみるときらきら光るみんなの笑顔

國居美風

(下松市立中村小学校)

とべなくてくやしかった百センチついにとべたよ大会の日に

安部心絆

(小千谷市立小千谷小学校)

くもってた最初は星が見えないでもだんだんと見えてくる星

岡部元希

(魚沼市立須原小学校)

ひまわりとせをくらべてるなつやすみいつになつたらおいこせるかな

田村結人

(魚沼市立広神東小学校)

お兄ちゃんバスケのしあい負けちゃったビリにはならず七位になった

小林琉南

(魚沼市立堀之内小学校)

夏の日にプールで遊ぶ子供たちみんなほおばるいろんなアイス

渡邊太一

(魚沼市立堀之内小学校)

夏休みしんせきの家だとまったよはじめてなのでどきどきしたよ

桜井銀士

(魚沼市立堀之内小学校)

なつやすみバスケれんしゅうがんばるぞしあいにでたら5点きめるぞ

山田陽人

(魚沼市立広神東小学校)

大会でフルートソロをがんばったきんちようしたが金賞とれた

櫻井媛和

(魚沼市立堀之内小学校)

宿題をやれとうるさい母の声家の外ではセミが鳴いてる

星 悠之介

(魚沼市立湯之谷小学校)

かえるさん空を飛ぶゆめ思いつくジャンプはできるが空は飛べない

八海みなみ

(魚沼市立伊米ヶ崎小学校)

結果発表珠算大会三位だねうれしさがちよつとくやしさがちよつと

山田 伸

(魚沼市立小出小学校)

そとにでてうえみあげるとひろがるよくもひとつないでかい夏空

五十嵐 晴

(魚沼市立小出小学校)

山の中きこえてくるよ水の音水の流れる小川見つけた

阿部優人

(魚沼市立小出小学校)

魚沼市自然がたぐさん美しいどこを撮っても緑が写る

山本そら

(魚沼市立小出小学校)

ジュニア部門（中学生の部）

応募歌数

四、二一三首

選者賞（沖ななも選）

黒鳥よその黒きつばさをはばたかせ天空をかるしつぷうとなれ

岡本律輝

（新潟県立燕中等教育学校）

選者賞（橘芳囿選）

図書館で勉強をした帰り道忘れられない青空のいろ

佐藤明華

（岩沼市立岩沼中学校）



魚沼市長賞

白球が高々上がり走り出すバットを投げて手を突き上げて

秋山武喜

(慶應義塾普通部)



新潟日報社賞

初めての大学体験行ってきた未来のぼくに思いをはせる

桜井奏太

(魚沼市立湯之谷中学校)

宮柙二記念館長賞・・・八首

妹にスマホ貸したらあら不思議開いてしまった顔認証で

七月の冬を経験最高に暖かかった異国の家族

暗闇の遠征帰りのバスの中窓から見える小さな花火

緊張のテスト終わって夏休みレベルアップを誓うこの夏

塾帰り浴衣着ているカッブルを横目に僕はひとり逆走

夏休み忘れさられた単語帳二学期始まりポロポロになる

もう遅い高校野球見て思う小さい頃になぜ辞めたのか

黄昏にページをめくる音の数ぼくの世界が広がる音だ

三坂理愛

(岩沼市立岩沼中学校)

島田将太郎

(慶應義塾普通部)

上村 花

(魚沼市立小出中学校)

市川航平

(慶應義塾普通部)

小林凌大

(中央大学附属横浜中学校)

大矢亮太郎

(慶應義塾普通部)

森島大賀

(慶應義塾普通部)

浦 輝貴

(慶應義塾普通部)

秀逸・・・二十八首

「まだ振るな」僕の心はそう言うが僕の身体はラケットを振る

東金清人

(慶應義塾普通部)

もうこない部活にささげたあの夏は次にむかって走り出さねば

湯本創太

(魚沼市立魚沼北中学校)

一階のまどから見えていた先生の車のナンバー覚えてた

志賀創太

(能美市立辰口中学校)

テスト増え差が開いてくこの時期に僕はどっちに差が開くのか

竹折颯真

(塩尻市立広陵中学校)

部活動あつという間に終わったないよいよ次は、受験生か

桑原光星

(魚沼市立魚沼北中学校)

バスケット見知らぬ同士と試合して急に深まる友情がある

奥田健太郎

(慶應義塾普通部)

仲間たち信じる心なくさずに新たな扉こじあける

菊地くるみ

(中央大学附属横浜中学校)

響いてる遠くの人のせきばらい試合開始の笛の音待つ

藤巻心優

(小千谷市立南中学校)

自転車で桜並木の坂のぼる成長したと実感できた

橘 日虹

(魚沼市立小出中学校)

「おかえり」と言ってくれるの嬉しくて私も言うよ「おかえりなさい」

清水明凜

(能美市立辰口中学校)

夏祭り二十四匹金魚すくいちぎれぬポイの強さにおどろく

井上実優

(魚沼市立堀之内中学校)

空港で兄とハグする元気でねポストンに発つ夏の始まり

藤田隆矢

(慶應義塾普通部)

町中で同じ車を見かけると浮かぶ一瞬の仲間意識

高橋千代里

(中央大学附属横浜中学校)

夏の朝叔父におつかい頼む祖母買い物リストついにデータ化

畔柳菜々子

(中央大学附属横浜中学校)

暑い日にマグマのように溶けだした猫のようすは流動体

小林陽太

(新潟県立燕中等教育学校)

夏休みまんきつしてるおれたちよいましかないよこのひまじかん

仲村充晴

(魚沼市立小出中学校)

お気に入り麦わら帽子相棒だこの夏ずっとかぶりっぱなし

上村玲衣

(魚沼市立堀之内中学校)

百七年また百七年後に優勝か百二十二歳まで待つてみようか

稲葉 翔

(慶應義塾普通部)

ホイッスル試合の最中鳴り響くふと見えたのは真つ青な空

水野日向 (昭和女子大学付属昭和中学校)

友と行く富津の海に置いてきたケンカのたねとスイカのタネ

錦織幸史 (慶應義塾普通部)

星明かり何年前の光かな今も届く亡き祖父の温もり

吉見香音 (中央大学附属横浜中学校)

空仰ぎ日記をつけるその間次第に動く白鳥座の位置

谷 栞那 (中央大学附属横浜中学校)

流星の流れる速さの夏だから瞬きなんてしないでおこよう

福崎結夏 (新潟県立津南中等教育学校)

一日は意外とすぐに終わりますだから一日大切に生きる

野中耀大 (新潟県立燕中等教育学校)

疲れたなドアを開ければ待っている「にこッ」と笑う自慢のおとうと

郡山衣絆 (新潟市立亀田中学校)

防具から鈍い痛みが伝わって倒れそうになる昇段試験

羽賀勇氣 (新潟市立亀田中学校)

黒々と輝く墨に筆をつけ白い半紙にすべらす一画

奥川雄太郎 (慶應義塾普通部)

大会で流した涙忘れずに汗を流してまた強くなる

小野湧生 (中央大学附属横浜中学校)

佳作・・・三十八首

夏祭り親の手をひき歩く子を見て思い出す昔のきおく

長橋羽音

(魚沼市立堀之内中学校)

音楽を聞いて一人でライブ気分一人の時間も楽しさいっぱい

豊島六花

(魚沼市立堀之内中学校)

枝豆をパクツとかじりおったまげ中身がとんだ迷子のお豆

櫻井謙臣

(魚沼市立堀之内中学校)

ふと見ると日向の場所が変わってる時の早さを教えてくれる

櫻井佳輝

(魚沼市立堀之内中学校)

三年間パスを磨いた女子リレー四人の絆バトンに託す

大平愛結

(魚沼市立堀之内中学校)

管平富士山見える早朝の晴れた冬の日よく滑る板

高原 蒼

(長岡市立東北中学校)

長袖をまくった腕にうっすらと梅雨の晴れ間の太陽のあと

温水紗帆

(昭和女子大学付属昭和中学校)

一年を共に過ごした級友の馴れぬ素顔に「はじめまして」を

温水紗帆

(昭和女子大学付属昭和中学校)

耳澄まし母の就寝確かめて私の時間始まる0時

島田 樹

(新潟市立亀田中学校)

大会で初めて出せた自己ベスト心の中で「よっしゃー」と叫ぶ

一ノ瀬 樹

(長崎市立深堀中学校)

明日の日の自分はどうか考えるもう日が暮れた夜空の下で

松本 志

(岩沼市立岩沼中学校)

待ち合わせに遅れてごめんと言うきみの浴衣姿に目を奪われる

門脇隼斗

(岩沼市立岩沼中学校)

離陸前滑走路越しに見える海高鳴る思いも空に飛ばして

重田勇人

(中央大学附属横浜中学校)

伯母さんに作ってもらった浴衣着てマスク外して行く夏祭り

長尾桃佳

(中央大学附属横浜中学校)

西瓜の種君には未来が詰まってるだから遠くへ飛ばしてあげるね

福崎結夏

(新潟県立津南中等教育学校)

帰り道季節はずれな赤とんぼいっしょに帰る不思議な時間

穴沢彩香

(魚沼市立魚沼北中学校)

虫見つけはしゃいで走り飛び跳ねるあの楽しさは戻りはしない

菅原健太

(新潟市立亀田中学校)

先輩と呼ばれて僕も思い出す立派な背中を見せているか

羽根誠治

(慶應義塾普通部)

なすきゅうりとうもろこしにプチトマトワクワクさせる夏の宝石

勝方心優

(中央大学附属横浜中学校)

強くなる夏の太陽一年中影の色は変わらないのに

山本由奈

(能美市立辰口中学校)

ヒマそうだ動物園の動物はおじいちゃんみたいなカピバラの顔

犬塚喜紀

(能美市立辰口中学校)

あざやかな色いろを乗のせてくキャンバスに色とりどりの私の心

齊藤優奈

(塩尻市立広陵中学校)

夏の海青く光って美しい波におされてどこまで泳ぐ？

丸山心温

(小千谷市立南中学校)

とめどなく流れ出る汗そのままに我に刻みし空手二十訓

杉山宗一郎

(慶應義塾普通部)

夏の庭四季の中でも一番ににぎわい見せろラストスパート

神代 廉

(慶應義塾普通部)

飛行機に乗りこみ地上を見てみると悩みもグチもちっぽけになる

谷 淳広

(慶應義塾普通部)

前日に転んでできたかすり傷忘れるほどの海の思い出

錦織幸史

(慶應義塾普通部)

夏休み祖父母に早く会いたくて眠れなかった僕の魂

下平健太郎

(慶應義塾普通部)

星光る空にぎりしめとつたぞとふざけて歩く部活の帰り

武 育実

(長岡市立東北中学校)

笹舟を小さな川へ旅立たせ遙かな海に思いをはせる

重田勇人

(中央大学附属横浜中学校)

夏祭り屋台や花火あるけれど「友達がいる」それが喜び

志垣花帆

(中央大学附属横浜中学校)

待ち侘びしじゅうよんさい十四歳の誕生日たんじょうびまんえつ満悦まんえつなのにどこかかな悲しい

小林愛梨

(新潟県立津南中等教育学校)

あいさつは笑顔になれる合言葉相手の心もきれいにはれる

小林仁心

(新潟県立燕中等教育学校)

書き直し焦ると出ないシャー芯が私の焦り加速させてる

小野優花

(新潟市立亀田中学校)

ラケットに狙い定めてシャトル打つ風で飛ばされ空振りの夏

関川萌衣

(新潟市立亀田中学校)

おはようと言わんばかりの朝日から早く起きなと言われた気分

古賀美羽

(長崎市立深堀中学校)

コンクール仲間を信じてさあ響けこの十二分に想いをこめて

高川明香里

(能美市立辰口中学校)

気剣体言い聞かせては深呼吸やってやるぞと竹刀をにぎる

吉井咲喜

(高崎市立佐野中学校)

ジュニア部門（高校生の部）

応募歌数

五、八八九首

最優秀賞

魚影追うその一瞬を箝で突く命の重さ腕に伝わる

秋元慈央

（新潟県立小出高等学校）

選者賞（冲ななも選）

舞台裏手に「人」を書き飲みこんでトランプを握り直した

角田 蘭

（神奈川県立湘南台高等学校）

選者賞（橘芳囿選）

一人ならできない事も友とならなんでもできそう
Ch^チh^ルi^ルl^ルい朝焼け
瀬下一太

（新潟県立小出高等学校）



魚沼市長賞

地下一階集密書架のボタン押しモーゼの如く本の海行く

松井宏志郎

(東海高等学校)



新潟日報社賞

守られた秩序で生活する吾と文学読んで放浪する吾

大本菜弥

(大阪桐蔭高等学校)

宮柁二記念館長賞・・・九首

夏休み家でダラダラダラダラとごろごろ過ごして夢幻泡影

西藤翔太

(神奈川県立七里方浜高等学校)

祭日に上がる花火と同じ日の同じ空にて揚がるミサイル

今村一稀

(神奈川県立鎌倉高等学校)

しわくちやの汚い手だと祖母笑う野菜育てる祖母の手が好き

加藤彩乃

(新潟県立燕中等教育学校)

倒れた兵潰れた塹壕テレビの中画面の中の知らない出来事

相原 葵

(神奈川県立七里方浜高等学校)

そのひとはじぶんをそんなにかえてまでいっしょにいたいひとなのですか

福田野乃花

(神奈川県立鎌倉高等学校)

センターの彼のドリブルする音が恋の鼓動と重なる放課後

荒木夏凜

(東京学館新潟高等学校)

バーベキュー、デイズニー、プール、ロックフェス行けずに高2の夏が終わった

栗山遙名

(神奈川県立鎌倉高等学校)

風通りゆるれるカーテングランドに見える君から目がはなせない

村山未希

(新潟県立十日町総合高等学校)

「本当にやりたいのならできるはず」大人の言葉で夢が消えてく

西野彩乃

(新潟県立十日町総合高等学校)

秀逸・・・二十六首

我が庭を隠れ家として雀の巣作られて見る成長絵巻

横溝惺哉

(クラーク記念国際高等学校仙倉キャンパス)

部活後の疲れた体にしみる水 私的レビューは星五つ以上

浅沼和花

(神奈川県立平塚江南高等学校)

追いかけて手を伸ばしても届かないまたダメだった流しそうめん

穴沢奏多

(新潟県立小出高等学校)

おじいちゃんの瞳にうつる17歳わたしはずっと5さいのまんま

佐藤わかな

(神奈川県立鎌倉高等学校)

寝転んだベッドの上で始まったスマホの中の花火大会

橋爪朋香

(神奈川県立湘南台高等学校)

卒業後進路に悩む私にはあえて聞かない母の優しさ

武田茜莉

(新潟県立小出高等学校)

羽根川に映る夕日が問いかけるどう生きるのかとペダルを踏み込む

秋元慈央

(新潟県立小出高等学校)

文化祭終った夜の月明かり踊り出そうよ文芸部員

藤塚厚至

(東京学館新潟高等学校)

ピカピカリ「ぐっ」やられたぜ不意打ちかまぶしすぎるぜ朝の日差しが

山口優佑

(新潟県立小出高等学校)

「味うすい」僕の言葉に母は言う「いい舌してる！減塩だよ」と

青柳 陽

(新潟県立小出高等学校)

夏祭り誘うと決めて一ヶ月震える手で押す送信ボタン

羽賀天音

(新潟県立十日町総合高等学校)

指先も汗をかいてる六弦のギターの練習またアルペジオ

須田啓介

(東京学館新潟高等学校)

七秒間視線を合わせてうなづいて彼はピッチの勝負に挑む

長沼万紘

(東京学館新潟高等学校)

火のつかぬ昨年の花火は告白の出来ない私の恋に似ている

八賀紗也佳

(東京学館新潟高等学校)

誰もいない小雨の公園肌寒くあなたの手まであと三センチ

丸山未來

(新潟県立十日町総合高等学校)

まだ粘れ残り2%のスマートフォン充電器への長い道のり

姉崎穂菜美

(神奈川県立湘南台高等学校)

雨音に耳を澄ませば「軽騎兵」勝手に聞こえる自然の音楽

高田勇樹

(神奈川県立平塚江南高等学校)

人生の誕生のときを目にできるすてきな仕事に就いてみたいな

野上 夢

(新潟県立小出高等学校)

初めての窓側の席外を見て魚野川からいい風吹いた

櫻井優月

(新潟県立小出高等学校)

がんばろう仲間と一緒にグータッチ暑いグラウンド駆け出して行く

松本咲千

(神奈川県立鎌倉高等学校)

墨のにおい筆をすべらす書道室自分の想いを半紙に込める

横原唯依

(神奈川県立湘南台高等学校)

くやし泣き汗がまざった涙には三年間がぎゅっとつまって

田邊宥河

(新潟県立小出高等学校)

「せをはやみ」いつ読まれるの汗にじむ冷房意味ない競技かるた部

和泉帆乃

(神奈川県立平塚江南高等学校)

百七十高くなつたと思いつつ流れおちゆく汗と炭酸

草野琴代

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

ラストランベストを出して終わりたい三年間の集大成を

松元 慎

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

この夏は誰がライバル関係ないホントのライバル自分だけだぜ

浦上亜衣里

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

佳作・・・三十七首

カラリンとビー玉落ちればもう夏だ夏の暑さもシユワツとはじける

柴田莉実

(昭和女子大学附属昭和高等学校)

海の上まっすぐ出来た太陽の輝く道を我らも歩く

小出和凜

(昭和女子大学附属昭和高等学校)

公園でシャボン玉空高くパツとわれた私の恋

齋藤優里佳

(新潟県立小出高等学校)

川はいり部活の後のアイシング流れに乗って夏を感じる

林 心紅

(新潟県立小出高等学校)

好きななんだ!! 気づいた思いはアクセル全開必死で探す恋のブレーキ

角屋実莉

(長岡工業高等専門学校)

タンハラミコブクロギアラリブローズ飛びかう言葉は呪文かお経

猪又 翠

(長岡工業高等専門学校)

超暑い。スカート折って腕まくるリボンはとらない女の青春

西野彩乃

(新潟県立十日町総合高等学校)

かぶりつくライブの抽選五秒前パソコン、マウスに苦勞をのせて

西野彩乃

(新潟県立十日町総合高等学校)

もう一度あなたに出逢う奇跡を願ひ眠りについて朝を迎える

奥村未来

(昭和女子大学附属昭和高等学校)

独りきり凍えかけていた僕のことただ抱きしめた君は春風

小林美柚

(神奈川県立七里方浜高等学校)

前脚でとんとんねだる腕枕うちのわんこの職業「かわいい」

深井美帆

(神奈川県立鎌倉高等学校)

相棒と夢見た景色さようなら夢と一緒に捨て去るラケット

遠井悠斗

(神奈川県立湘南台高等学校)

ロボットを組み立てながら移動中競技開始は残り一分

小河翔太郎

(神奈川県立平塚江南高等学校)

流れ行くこの一瞬も生きている光れ魂輝け命

田村陽和

(神奈川県立平塚江南高等学校)

北国の広く大きな青空に「また来るからね」手を振り続ける

金井綾美

(神奈川県立平塚江南高等学校)

夏祭りみんな仲間と来る中で僕の手を引く小さな妹

小澤康太

(神奈川県立平塚江南高等学校)

初登校慣れない制服身に纏い正門くぐり風が背を押す

松島璃紗

(神奈川県立平塚江南高等学校)

八月六日午前八時十五分発快速アーバン高崎行き

市川 碧

(神奈川県立七里方浜高等学校)

グラウンド猛暑の中で打球追う息は切れるが気持は切れない

平澤茉晃
(新潟県立小出高等学校)

宿題を七月中に終わらせる意気込みだけで過ぎる七月

高橋伶奈
(新潟県立小出高等学校)

山中湖朝五時起きでランニング朝日が照らすランニングコース

八木陽士
(神奈川県立湘南台高等学校)

夏が去り先輩抜けた部活動音楽室がやけに広くて

小林夢芽
(新潟県立小出高等学校)

ハンバーグ調理実習で作ったら真っ黒こげのわりにおいしい

羽賀太俊
(新潟県立小出高等学校)

「味方だよ」その一言で頑張れる空から見ててねひいおばあちゃん

山田 奏
(新潟県立小出高等学校)

ROCKONプールサイドの君の顔クロール途中の息継ぎ中に

齋藤万璃
(長岡工業高等専門学校)

家じゅうのTシャツ十五枚探しだせ夏合宿への準備わくわく

竹中愛佳
(神奈川県立湘南台高等学校)

テスト受け分からぬ所多すぎて「織田信長」を四回も書く

岩田優里
(新潟県立十日町総合高等学校)

はじめての面の重さを忘れるな驕ることこそ負けのはじまり

村山未希
(新潟県立十日町総合高等学校)

スズメたち一羽が逃げれば皆逃げる私はなりたいた逃げない一羽に

小宮山理子

(新潟県立十日町総合高等学校)

制服と雰囲気が違う友達はもつと遠くに出掛けたいらしい

小松らん

(神奈川県立鎌倉高等学校)

五七五七七考え三日三晩七転八倒四苦八苦

安田千織

(神奈川県立湘南台高等学校)

下校中仲間と走る雨の中濡れるノートと晴れてく心

小松香輝

(神奈川県立湘南台高等学校)

ワイの部は2年がいらないなんでやねんせやから1年練習キツイ

山崎風吾

(神奈川県立湘南台高等学校)

だいきらいさいんこさいんたんじえんと何に使うのこの役立たず

山川英里依

(神奈川県立七里方浜高等学校)

無理だって私の努力に期待ゼロそんな家族を見返してやる

佐藤 遥

(神奈川県立七里方浜高等学校)

夏休み連日部活憂鬱さ雨予報の日だいたい晴れる

林 芽似

(神奈川県立七里方浜高等学校)

大会後「負けた」とさけび入る海悔し涙も夕日に染まる

村山未希

(新潟県立十日町総合高等学校)

第二十九回宮柁二記念館全国短歌大会学校賞授賞校

小学校 新潟県 十日町市立中条小学校

新潟県 魚沼市立堀之内小学校

中学校 神奈川県 慶應義塾普通部

高等学校 新潟県 新潟県立小出高等学校

学校賞

学校（学年）全体で取り組み、多数の応募をして、
優秀な成績を収めた学校に授与する賞です。

編集後記

堀之内町制施行七十周年を記念して初めて開催された宮柵二記念館全国短歌大会は、今年で二十九回を迎えました。

今回は、選者に歌人として活躍されている沖ななも先生、橘芳園先生をお迎えし開催することができました。応募作品数は、一般部門で九百三十四首、ジュニア（小学生、中学生、高校生）部門では、一万千四百五十七首となりました。

ご多用のなか、しかも応募作品がたいへん多いにもかかわらず、両選者先生からは一首一首について心のこもった選をいただくとともに、感銘深い「選者のことば」を添えていただきました。ありがとうございます。

一般部門に秀作を応募くださった皆様、ジュニア部門にみずみずしさと躍動感あふれるすばらしい歌を応募いただいた児童、生徒の皆さん並びにご指導いただいた各学校の先生方から感謝申し上げます。

来年の第三十回大会にも、引き続き多数の皆様から応募いただきますようお願い申し上げます。

（宮柵二記念館館長 下村正人）

令和五年十一月十一日

主催 魚沼市

魚沼市教育委員会

主管 宮柵二記念館

後援 新潟県教育委員会
新潟市教育委員会
新潟市文化協会
新潟日報
朝日新聞新潟支局
毎日新聞新潟支局
読売新聞新潟支局
越前ニュームズ
小出郷新新聞社
NHK新潟放送局
BSN新潟放送局
NST新潟総合テレビ
UTeNYテレビ新潟
UX新潟テレビ21

協賛 コスモス短歌会

発行 令和5年11月11日

宮村二記念館

〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6

TEL・FAX:025-794-3800

Mail:miya-museum@city.uonuma.lg.jp

HP:<https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>
